

生化学測定装置と免疫測定装置の違いと統合化

アボットジャパン（株） イムノアッセイスペシャリスト 棕 寛之

生化学測定装置と免疫測定装置は似て非なるものです。確かに測定物質は生体内に存在する微量物質ですが、その測定意義や測定方法、測定単位等全く違うと言っても過言ではありません。しかし、この両者は同じ検体から測定する事が非常に多い事も事実です。もし一本の採血管から同時に測定できたらどんなに便利でしょうか。長年それは検査業界の夢であったと言ってもいいと思います。しかし、お互いの検査システムの特徴と利点を考えていくと無理にひとつの方法に押し込めるのではなく、現在の測定方法を生かしながらシステム上総合する方がより合理的である事と私共は判断いたしました。それは生化学と免疫と言う別々の機器をサンプラーで統合し、別々の機械で同時に処理するとう発想です。しかしその為には生化学機器に存在するキャリーオーバーや緊急検体の即時対応等解決しなければいけない問題が多々ありました。今回のセミナーでは免疫学的測定の特徴を中心に、生化学測定機器と免疫測定機器の構造的な違いを簡単にお話しし、どのように統合運用を可能にしたか、いった事をお話ししたいと思います。

生化学測定装置と免疫測定装置の測定方法による違い。

⇒免疫学的測定の測定方法の種類や特徴

生化学測定装置と免疫測定装置の総合化へ

⇒総合化の為の洗浄技術の開発について

生化学、免疫連結装置の特長と利点

⇒統合によるメリット